

▶ 消防団員セーフティ・ファーストエイド研修を実施して ◀

群馬県消防協会渋川支部

1. 渋川支部について

当支部は、群馬県のほぼ中央、雄大な関東平野がはじまる所に位置し、北緯36度30分、東経139度付近を軸として、人口約11万人、面積約288km²の地域で、周囲は水沢山、榛名山、小野子山、子持山及び赤城山麓がそびえ、圏域の中央で利根川と吾妻川が合流する、水と緑の豊かな自然に恵まれた地域です。

構成市町村は、名湯「伊香保温泉」やアニメ「頭文字D」の舞台として知られる渋川市、「おっきりこみうどん」が有名な吉岡町、「ぶどうの里」で知られる榛東村からなっており、四季折々の観光や味覚が楽しめる地域となっています。

2. 群馬県消防協会渋川支部について

群馬県消防協会渋川支部は、渋川市、吉岡町、榛東村で構成する三つの市町村の消防団からなっており、条例定数925人、平成30年4月1日現在の団員数は863名（うち女性団員5名）です。

当支部は、年間を通じて消防団員の教育研修に力を注いでおり、毎年春に実施される幹部団員や新任団員の教養をはじめとし、夏のポンプ操法競技会、秋の各地域防災訓練など、様々な訓練や研修など積極的な取り組みを行っています。

3. 研修実施の経緯について

今から一年前、消防団員等公務災害補償等共済基金が発行する本誌広報消防基金（平成30年4月号）を拝見し、『消防団員セーフティ・ファーストエイド研修』の存在を知りました。そこで、当支部の教育研修として消防団員セーフティ・ファーストエイド研修が実施できるかどうか検討を始め、過去には、災害現場で消防団員が負傷する事案もあったことなどから、支部長や副

支部長でもある各市町村消防団長等と相談の結果、実施可能と快諾をいただき『自分たちでできるファーストエイドは自分たちで行う』をコンセプトとして実施する運びとなりました。

4. 研修の概要

平成31年1月20日（日）、渋川市役所第二庁舎を会場として、当支部の役員と消防団員51名（うち座学のみ15名）が受講しました。

当日の講師は、国立病院機構災害医療センター（厚生労働省DMA T事務局）から小井土雄一先生、河嶌 譲先生、小森 健史先生が努めてくれるとともに、消防団員等公務災害補償等共済基金から篠塚 健史参事もお見えになって、とくに篠塚参事からは研修会を始めた経緯を聞くことができ、イントロダクションから参考になることが多かったです。

研修では、任務遂行中不測の事態（消防団員の負傷）に対応するため、基礎知識となる座学と、実際に事故が発生した際の対応として、二次事故の防止対策、エマージェンシーバンテージを使用した処置訓練や傷病者の搬送方法等を習得した他、災害時メンタルヘルスケアの講義では、一番大切な人道的支援や被災者及び支援



研修の様子（全身観察の方法）

者の心理状態などを学び、PFAの重要な技術となっている『傾聴』をロールプレイング方式で体験し、人それぞれのケアについて知識を深めることができました。



エマージェンシーバンテージの使用法



研修の様子（総合訓練）



災害時のメンタルヘルスケア講義

5. 研修を終えて

今回、当支部で初めての試みとなる消防団員

セーフティ・ファーストエイド研修を実施し、参加した消防団員のアンケートの中には『災害現場や訓練だけではなく、実生活でも活用できたり、人に伝達できるものが多く、とても意義のある時間を過ごすことができました。』『災害時のメンタルケアはとても必要だと思いました。』と言った声が挙がっており、受講した消防団員の一人ひとりが、それぞれの分団に持ち帰り、さらに団員などへ伝えることによって広がりが大きくなることと感じられました。

最後に、本研修会を開催するにあたり、大変お世話になった小井土先生、河寫先生、小森先生、消防団員等公務災害補償等共済基金の皆様には厚く御礼を申し上げるとともに、あってはなりません、いざという災害に備えるべく地域消防団の消防力を向上していきたいと思っています。



講師と指導補助スタッフ



参加者集合写真